

## おお～まじかあ！

### ゆがみ取り SPAT 後の劇的改善に心で叫んだ

【聞き手】ゆがみ取り SPAT 開発者 鹿島田忠史

『ゆがみ取り SPAT 下巻』が 2021 年 4 月に刊行され、2020 年 10 月発行の上巻と合わせて全体が完結した。開発の経緯については、4 月のインタビュー記事（4 月 7 日号、4 月 14 日号）をご一読願いたい。このシリーズでは、実際の臨床場面でゆがみ取り SPAT を早くから取り入れている何人かの治療家に登場してもらい、私と対談してもらうこととした。第 3 弾のお相手は、『ゆがみ取り SPAT』上下巻のビデオに出演した長松剛氏。ゆがみ取り SPAT を臨床応用している治療家の生の声を聴くことは、これから導入を検討している治療家にとって、きっと参考になるはずだ。（鹿島田忠史）

長松剛（ながまつ・ごう）

1985 年 千葉県生まれ。

2007 年 柔道整復師免許取得

2009 年 勤め先の接骨院の分院長を任される

2009 年 幕内力士の施術を担当

2013 年 4 月 ながまつ整骨院開院

2019 年 7 月 SPAT UNION CLUB 認定指導講師就任



長松剛氏

鹿島田 長松先生と奥様には昨年初めのビデオ撮影では、本当にお世話になりました。改めてお礼を申し上げます。今日は、先生とゆがみ取り SPAT（以下 SPAT と略す）の関わりについて、いろいろとお話を伺いますので、よろしく願いいたします。

長松 こちらこそ、貴重な機会をいただきありがとうございます。今回もよろしく願いいたします。

柔整師の道を選んだきっかけは？

鹿島田 長松先生と SPAT の関わりを聞く前に、そもそものお話をお聞きします。先生が柔整師の道を選んだのはどんな理由だったのですか。何かきっかけがあったのですか。

長松 はい。私は小中学校のときに週 5 回の水泳・週末はサッカー・草野球ととにかくスポーツが身近だったことと、どちらかという家族に手を焼かせ冒険して遊ぶタイプだったため、怪我をして通っていた接骨院には本当によくお世話になっていました。ある時、接骨院で施術を終えた患者さん達の表情がにこやかになっていることが不思議で、その上「ありがとう」と言われている先生を見ると何となく「いいなあ」と思っていました。後から思うと、その時の気持ちが心のフックとなっていたのだと感じます。

本気で柔整師になろうと決めたまきは、高校で股関節が疲労骨折寸前の状態でも、大会出場のためサッカーをし続けた自分を、接骨院の先生が諦めず支え続けてくれたことです。自分も同じように「いま、この瞬間を頑張りたい!」と思う人たちを支えられるようになりたいと、この道を選びました。

### 勤めていた接骨院では力士の施術も

鹿島田 専門学校の学生の時には整骨院などで研修生をする方が多いのですが、長松先生はどちらかに所属されていましたか。もしそうならば、その施設で院長先生はどんな施術をメインにしていたのですか。

長松 私は、学生時代には研修をしていませんでした。昼間部に通っていたこともあり、周りも研修している同級生が少なかったので、当時、あまり必要性を感じていませんでした。今思うと、研修しておけばよかったなあと思う部分もあります。ですから、本格的に施術を学んだのは、柔整師になってからです。地域密着型というような、幅広い年齢層の患者さんと毎日稽古終わりの力士たちの施術をしていました。相撲部屋が隣にある院だったので。いろいろと経験を積むことができました。その施設は押圧手技主体で、ある程度の型とポイントを教わりました。私自身、からだの構造をイメージしながら施術することが好きなので、押圧手技をメインにして患者さんと向き合いながら自分なりに考えて施術していましたね。

### SPAT に興味を持ったのは「ソフトな矯正法と医師が開発」という点

鹿島田 長松先生が初めて SPAT の講習を受けたのは、この対談シリーズの第 1 回に登場してもらった石川先生の主催されている「ぶっちゃけ会」の会員だったからと記憶しているのですが、そうですね。

長松 そうです。ちょうど、独立開業する 2 カ月前でした。印象的なネーミングのぶっちゃけ会という整骨院の先生同士が集まる会があることを知りました。保険診療のみでは限界があると考えていたため、いろいろと模索していた最中だったので、経験のある先生方から助言をもらえたらと思い参加しました。ぶっちゃけ会の懇親会で、私から石川先生に自費で行

える手技について相談をしたんです。そこで「SPAT」の話を聞くことができた、というような経緯でした。

鹿島田 ぶっちゃけ会に参加されている中で、どうしてSPATに興味を持たれたのでしょうか。石川先生の強引な誘いを断り切れなかったとか（笑）。

長松 いえ（笑）。強引な誘いはありませんでした。自費の施術として骨格矯正を学びたいタイミングだったこともあり、石川先生に話を聞きました。興味を持ったポイントとしては、他院と差別化できるソフトな矯正法と医師が開発したという点ですね。

### **最新版のDVDブックは適切例と不適切例があり、わかりやすい！**

鹿島田 私の開催する講習会に参加されたとき、SPATに対する正直な印象はどうでした。

長松 私は、石川先生にマンツーマン指導を受けていたので、鹿島田先生の開催する講習会に参加したのは、確か頸椎 SPAT をできるようになってからです。SPAT を学んでいる先生に会うのが初めてでしたので、とても緊張していたことを覚えています。

その後は、毎回参加させていただいているかと思うんですが、アットホームな感じで、もしわからないことがあっても質問しやすいですし、質問をすれば快く教えていただけるので、とても勉強になる講習会です。SPAT を覚えて施術に取り入れていても、徐々に自己流になっていることに気づかされ、定期的にブラッシュアップをする大切さを知ることができました。

あと、鹿島田先生の講習会は、実技だけでなく座学や意見交換をする場があって、とても勉強になっています。

鹿島田 当時、私は「SPATは簡単で、すぐにできるようになります」といていた記憶があるのですが、実際に簡単だと思いましたか。

長松 そうですね。大体の形を真似ることは、簡単です。ひとつひとつの細かな感覚は、直接教わることで確実性を増すことができました。今回参加させていただいた最新版のDVDブックには、適切な例とよく間違えやすい不適切例がピックアップされているので、これまでもよりも一層簡単に身につけられる手技となっているのではないのでしょうか。

ちなみに私の場合は、資格試験の際に毎回モデルとして同伴した妻が直々に鹿島田先生のSPATを受けていたので、妻の合格点のハードルは高かったです（笑）。

**SPATは学びながらでも臨床に取り入れやすい手技**

鹿島田 何回かの講習を受けて、ある程度 SPAT ができるようになったはずですが、SPAT を臨床に取り入れるのは難しかったですか。新しいことをするときの患者さんのとまどいや不安もありますし…。

長松 私自身に戸惑いや不安はありませんでした。すごい手技を学んだ！ と感じていたので。早く患者さんに施術し健康になってもらいたい一心でした。指圧的な要素がほとんどなく、その手技法に驚かれる患者さんも確かにいました。でも思っていた以上に性別や年齢問わず「骨格矯正」という施術を耳にし興味がある方が多かったことで、受け入れてもらいやすかったのかもしれない。中でも医師開発・安心・安全という SPAT のプロセスは患者さんへの安心材料であると思います。

また、SPAT は学びながらでも取り入れやすい手技なので、覚え立ての駆け出しながらも効果が発揮できました。側屈のみ覚えた時点からどんどん臨床に取り入れ始めましたが、身体が楽になったと言ってもらえたので、その後の学びのモチベーションにも繋がりました。余談ですが、正式に資格を取るまでの期間限定的にお試し価格を導入したことが患者さんに好評でしたし、正直なところ、その分は講習費にも充てることができました。

### SPAT の自費施術による差別化を図るため、予約制を導入

鹿島田 すでに開業している状態で SPAT を本格的に取り入れられたようですが、それまでの施術との兼ね合いはどうしたのですか。SPAT を取り入れようとするとき、兼ね合いのほかにどんな問題点がありましたか。その問題点をどのように解決していったのでしょうか。

長松 開業当時、私の院は予約なし・施術兼受付をひとりで行うスタイルで、保険を適用できる症状の方ばかり来院していました。SPAT の手技そのものは短時間で効果が期待できる施術法ではあるのですが、保険の施術に加えて自費施術の SPAT をプラスするとなるとちょっと…。施術時間・待ち時間が多くなることと、私自身もう少し踏み込んで操体理論を生かしながら患者さんと向き合い施術にあたる必要性を感じたことは、早く解決したい問題点でした。当時は、まだ予約制を取り入れている院が近くになかったため、まずは予約優先制をスタートし今では完全予約制としたことで、SPAT の自費施術の差別化も図りつつ問題解決にもつながりました。

### おお～まじかぁ！ すぐ効いた SPAT に手応え

鹿島田 SPAT を初めて臨床で試したとき、長松先生の感想はどんな風だったのですか。また、患者さんの反応はどうでしたか。

長松 最初に既存の患者さんであった 60 代後半の女性の患者さんに施術しました。SPAT 時に患者さんの身体が変化していく手応えのようなものを、触れていた手から感じ取れたのを覚えていますね。患者さんも、想像以上に身体がラクになったと言ってくれ、あれから 8 年経ちますが身体のケアとして毎週 1 回の SPAT を受けに来院されています。

鹿島田 SPAT をしていて、してよかったと手応えを感じるのはどんなときですか。実例があったら教えてください。

長松 そうですね。特に印象的な実例は2つあります。1例目は、膝痛で脚を少し引きずるように来た患者さんです。骨盤の SPAT 後に膝痛がかなり軽減し、自然に歩いて帰った方がいました。手応えを感じましたね。あまりに前後の変化が大きかったので患者さんも驚かれていましたが、私も心の中で、「おお～まじかあ！」と思いましたね。

2例目は、病院で自律神経が乱れていると診断された患者さんです。診断を受けて、薬に頼りたくないけど、どうしたらいいのかと不安でいっぱい患者さんでした。骨盤から頸椎までの SPAT 後に身体がスッと楽になって、気持ちも落ち着いてきたと言ってもらえた時には、よかった！と感じました。現在は、たまに不安定になるようですが、生活習慣指導と SPAT を定期的に行い、薬を手放せています。患者さんも SPAT が安心剤になっているみたいです。

### ソフトで気持ちよい施術なのに結果が出せるのもメリット

鹿島田 SPAT を臨床でしているとき、他の施術と比べてよかったと思える点は何でしょう。また、そう思えた症例がありましたら教えてください。

長松 矯正の“ばきばき”というイメージは、SPAT には当てはまりません。そこにメリットを感じます。ソフトな矯正で身体にかかる負担が少ない・気持ちよい施術なのに、結果が出せることは、これから受ける方にも勉強したい施術家の方にも良い点として受け入れられると思います。

症例としては、産後の骨盤矯正ですかね。いつも数ある治療院の中で、なぜうちに来たんですか？と尋ねるようにしています。その回答の中に“ばきばき”する矯正が怖いと感じていたけど、“ばきばき”しないで気持ちよい矯正をしてくれるとホームページに書いてあるのを見て来ました。と、来院のきっかけから SPAT が役立っています。実際に受けてもらうと、えっ？もう終わったんですか？という反応なのですが、再度動診をすると違いが出ていることに驚いて喜んでくれます。

### シンクロ揺らしと追い込み矯正が難しい

鹿島田 実際の SPAT をするとき、難しく感じる点にはどんなものがありますか。それは、経験を積めば解消できるものなのでしょうか。

長松 そうですね。難しいと感じた点は2点あります。1つ目は、シンクロ揺らしです。なかなか受け手の心地よいリズムで揺らすことができず、頑張ろうとすればするほど、手力(てぢから)になり、揺らしが動かしになってしまっていました。

2点目は、追い込み矯正です。SPAT はソフトな矯正なので、矯正をするときの瞬発的な力は少なくてもいいはずですが、けれども、ROM 限界までストレッチをかけ最後に最適な力で矯正をする、その加減が難しかったです。覚え立ての頃は、心の中で適切な力加減だったかと自問自答もありました。経験を積むのはもちろんだと思いますが、SPAT の根底にある操体原理に則り、柔軟な姿勢で患者さんと向き合って決める心持ちをもつことが大切だと私は考えます。

鹿島田 最初に接したときと現在で、SPAT の内容は違ってきていますか。違っていても、どこがどれくらい違うようになったのでしょうか。

長松 初めて SPAT を学んだ時と今の違いですか…。軸となっている考え方は全く変わっていませんが、操体理論の生活習慣指導については時代による影響がありますから、特に変化しているように思います。呼吸の鍛錬法・運動法・ストレス管理法はしっかりとバージョンアップされていますし、別の対処法に置き換わったものもありました。手技も微妙に変化しています。細かな持ち手・足を置く位置・ROM の少ない人や妊婦さんに対する SPAT など臨床経験を基に日々進化し続けているのではないのでしょうか。

### **SPAT はどんな患者さんにも安心安全に行えるのが魅力**

鹿島田 SPAT は自費診療の武器になってほしいと願っているのですが、実際の臨床での手応えはいかがでしょうか。もし、自費診療の武器にする上で注意点があるとすれば、どんな点でしょうか。

長松 自費診療として、とても手応えを感じています。私の院も実際に、SPAT で成果を出していますので、【患者さんの悩みを解決する手段の 1 つとして SPAT がある】ということそのものに強味があるのは確かです！

武器にする上での注意点ですかあ…。 う～ん、そうですね…SPAT はどんな患者さんにもある程度行えるのが魅力です。「子どもから高齢の方まで幅広く行える安心安全な手技」であることを生かすことですかね。

そうすれば、想像以上にいろんな患者さんをターゲットにすることができます。実際、私は高齢の方向け・産後の方向け、マタニティの方向け・不調を感じている方向け・こどもの整体・頭痛の自費プランに SPAT を組み込んでいます。

### **操体理論を学ぶことで施術以外の部分での知識・応用力が身につく**

鹿島田 SPAT では手技以外に、操体理論による生活習慣指導を重視しています。患者さんに生活習慣指導をするとき、「余計なことを言わずに施術だけしてくれればいい」という顔をされませんか。また、そうした反応にあったとき、どのように対処して乗り越えました。あ

るいは、今でも困難を感じますか。

長松 確かにあります。実際に初回施術時のクチコミに書かれたこともありましたが…。ただこちらが初回にいくら伝えても聞く耳を持たない患者さんには響かないと私は思っているので、潔く SPAT ではなく慰安的な手技療法だけをします。普段、したことはしないんですが（笑）。

その方が、どんな悩みがあるのかをまず汲み取ります。その上で、日常生活の習慣が身体ゆがみを作り不調になりうることや、慰安的な手技療法だけでなかなか身体が楽にならない場合・辛さを繰り返す場合は、ゆがみ取りの施術や生活習慣見直しのアドバイスもできることを提示します。そうして患者さんの頭の片隅に呼びかけるようにしています。

操体理論について、本来であれば患者さんにはきちんと操体理論を知ってもらい生活習慣を見直してほしいと願っています。ただ、口には出さないけれど、生活習慣指導をされることにストレスを感じる人も結構いるようです。私自身も結構な怠け者なので、できればやらなくていいことは、やりたくない派です。なので、あれもこれもとやるのではなく、できることや必要なことから無理をせず少しずつ取り組む、という操体理論の生活習慣指導は受け入れやすく成果に結びつきやすいと思います。

鹿島田 操体理論による生活習慣指導の有用性を感じることはありましたか。それは、どんな場合でしょう。例があったら教えてください。

長松 はい、「どこで治療をしても治らないと悩んでいる患者さん」に対して特に有用性を感じています。そのような人は、治りたい気持ちの反面どの施術に対してもマイナスなイメージ、不信感を持っていることが良くなるための障壁になっている場合もあつたりします。最初から施術をするだけではなかなか改善しないかもしれないと覚悟しながら来院されているかもしれません。操体理論の第二法則を基に患者さんを問診することで、生活習慣のどこの部分を優先して指導をすれば、早く良くなる可能性があるのかを患者さんにも自信を持って説明ができるはずで。結果、患者さんのことを私たちも知ることができ、患者さんからの信頼感にもつながっていると思います。操体理論を学ぶことで施術以外の部分での知識・応用力が身につくと言えます。

### 操体理論はトレーナー活動時にも役立つ

鹿島田 長松先生は、フットサルの選手兼トレーナーをされていますが、操体理論は役立っていますか。また、トレーナーの指導を受けた選手の反応はいかがですか。

長松 トレーナー活動時に選手に伝えることは、第一法則の「後が気持ちいいは、体にいい」の部分です。社会人チームの方は身体への意識が高い人が大部分なのですが、何かとやり過ぎてしまう人が多いことがわかりました。ストレッチも全力でぐう〜っと限界以上に伸ばす

ような選手が多く、かえって痛めている人もいたくらいです。そんな時に、気持ちいいくらいのストレッチをするように伝えています。実践している選手の中には、ケガが減った方もいましたので…やっぱり、やり過ぎていたんですね。これから長くスポーツを楽しむために、操体理論は役立っています。

## 私の願いは SPAT を手がかりとして操体理論が常識となり、医療のパラダイムシフトが起きること

長松 最後に、こちらからも鹿島田先生に質問してもよいでしょうか？

鹿島田先生が SPAT を開発し、実践していく中でよかったなと思うのは特にどのような時ですか？ また、大きな枠組みでの質問なのですが、今後の SPAT がどのように治療家の先生に受け入れられて、どのように臨床の場に広がってほしいと願っているのか、鹿島田先生の想いをぜひ聞かせてほしいです。

鹿島田 SPAT を開発し実践してきた中でよかったと思うのは、西洋医学的な保険診療で治らなかった患者さんが劇的な改善をしてくれたことですね。そうした症例はいくつもあるのですが、とりわけ記憶に残っているのは 40 年来の腰痛が消えた女性の方です。この方は、いわゆる産後の肥立ちの骨盤復古不全による腰痛で、3 カ月の SPAT で嘘のように腰痛がなくなりました。整形外科はもちろどこに行っても治らなかった腰痛だったので、ご本人は「一生痛みと付き合うしかない」と諦めており、本当に喜ばれました。

SPAT について究極の私の願いは、この手技療法を手がかりとして恩師橋本敬三先生の操体理論が常識となり、医療のパラダイムシフトが起きることです。科学技術が高度に発展し、ものすごく細かい分析ができるようになりました。でも、医学の発達がそのまま健康度の向上とはなっていませんよね。その原因は、個々人の感性を無視して客観的・科学的指標だけで判断しているからでしょう。操体理論と近代西洋医学を結合させれば理想的な医療が実現するはずですが、残念ながら、画一的・統制的な保険医療に縛られかつ保護された保険医の先生方は、こうした発想に眼を向けようとはしてくれません。個人的には、そうした規制が少ない柔整や鍼灸の先生方が先頭を切って自費診療の武器として SPAT と操体理論を取り入れ、喜んでくれればよいなと期待しています。

私の生きている間にこうした方向が見えるかどうかわかりませんが、新型コロナのパンデミックをきっかけに劇的に世界が変わっているので、可能性はあると楽しみにしています。

長松 操体理論が常識となれば、健康的に過ごせる人が増えると私も思います。これからも当院に来た患者さんに操体理論を伝え続けていきます。また、微力ながら SPAT を学びたいという方の力になればと思っています。